

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月10日

宮崎市総合発達支援センター 児童発達支援センターすびか

職員数 17名 回収数14名 割合82%

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	10	4	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りのパーテーションなどでさらに区切ったりしている。 ・活動に応じて遊戯室を利用するなど工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋によって狭い部屋がある ・スペースの狭い保育室がある。日常的に使用する座位保持椅子やマット、机などの物品を置くスペースがなく、廊下に出さなくてはいけない状況があり、過ごしづらさがある。 ・定員40名だが、ハード面を考慮すると、定員とスペースは不適切だと感じている。 ・1番狭い部屋を使用していないため、各Gの子どもが過ごす分にはスペースは確保されている。活動によっては不十分なので部屋を交代しながら使用している。
	2 職員の配置数は適切であるか。	9	5		<ul style="list-style-type: none"> ・配置は定数であるかもしれないが、人手不足は感じる。 ・より密な支援のためには必要。 ・子どもの人数にあっているかも知れないが、1対1対応の子が増えており足りていない状況。 ・もともとの配置数は適切であるが、病休等で職員数が少なく、体制が不十分な日がある。 ・基準は満たしている。
	3 生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	9	5	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報に振り回されやすい子どもがいる場合は掲示や装飾を少なくしたり、物品の置き場を配慮している。 ・活動と子どもに応じて視覚的な流れ表を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児のオムツ交換スペースが狭くプライバシーの配慮に欠ける。肢体不自由児の専用トイレがない ・より構造化できる部分がある。 ・グループによっては、視覚的に分かりやすい環境や関わりをしている。十分とは言えない。 ・施設内でバリアフリーでない部分(段差、傾斜)はあるため、細心の注意を払っている。 ・環境としては、シンプルな視覚的構造化で、子ども自身に分かる環境を心がけている。

4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	13	1	・毎日清潔に保てるよう、清掃、消毒はこまめに行っている。	・グループの部屋は管理されているが、つきの部屋や遊戯室などに使用したままの遊具や絵本が散乱していることもあるため、整頓を心がけていく。
---	--	----	---	------------------------------	---

	チェック項目		はい	いいえ	
	業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	2
	6	保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施し、改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表および保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に掲示し、ホームページの公開をしている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか。	8	6	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生から頂く意見を参考に改善することをしている。 ・外部評価のシステムは現在利用していない。
	9	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がスキルアップしたいと思う研修内容が違うことがあり、参加したい研修に忙しくて行く機会がない。 ・今年度は、新人研修の機会をたくさん頂けてありがたい。 ・研修の機会はあるが、人数制限等で参加できない場合もある。年5回以上は自己研鑽のための研修参加ができると良いと思う。(研修機会の斡旋だけでなく、人が抜けても大丈夫な職員体制の整備が不可欠だと思う)

	チェック項目		はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題、客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・すびかでのアセスメントは、保護者や他事業所、担当セラピストからの聞き取りや行動観察による方法で実施し、規定のアセスメントシートを活用している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	7	7	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツールを参考としたアセスメントシートの活用している。 ・入園前の聞き取りでは園独自のアセスメントツールを使用している。入園後は、日々の関わり自体がアセスメントになる。個別指導計画の目標をもとに、毎日実践とその結果を記録として残している。
	12	児童発達指導計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、支援項目、支援内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	14		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・立案は週Lが行い、グループ職員で確認・検討を行っている。 ・月案作成、前日までに日案をグループで確認し、連携がスムーズにできるよう努めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		

	チェック項目		はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成しているか。	13	1	・基本的には集団療育を行っており入園前にも保護者に了承を得ている。個別の訓練が必要なケースは診療スタッフにもつなぐ。診療スタッフによる保育士への指導助言は、個別の関わりや活動の中で取り入れている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	13	1	・特に新しい取り組みを行う前はねらいと見たい姿を共有している。 親子保育前には毎回打ち合わせを行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	2	・改めて時間を取って振り返りができないときもある。日々の会話の中で子どもの姿を伝えあっている。 ・活動や個別対応等を振り返り、全体への共有事項を確認している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	13	1	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	14		

チェック項目		はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	14		・児童発達支援管理責任者とグループ職員、医療的ケアが必要な園児においては看護師も参加している。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	13	1	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	13	1	・入園前、担当医師からの指示書を基にして、センター医師とケアの状況を確認後、入園検討を行っている。 ・看護師、医師と情報共有をしながら支援を行っている。 ・保護者を通じて連携している。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか。	12	2	・看護師を中心に、Drの指示に従って処置や対応を行ったり、連絡を取っている。
	25 移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	2	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	・電話での情報共有や、来園いただき子どもの姿を見られている。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	12	2	
	28 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか。	9	5	・なかなかできていない現状。12月に地域の保育園と交流保育を実施。 ・全園児がその機会はない。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	7	・児発管が出席している。毎月参加しないと継続した議論に参加することが難しいためできるだけ続けて参加できるようにしていきたい。 ・自立支援協議会に職員が交代で出席する機会があっても良いのではないかと考える。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14		・親子保育や連絡帳を通して情報共有を行い、なるべく芽生えの部分や良い変化をお伝えしている。課題や困りごとがある場合は、面談の中で聞き取りを行い、あまり時期を空けずに返答できるようにしている。面談では、子どもの姿と活動の意味を絡めてお伝えするように努めている。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	3	11	・ペアレントトレーニング等は行っていない。 保護者参加型の行事や外出、親子保育等が、家族支援プログラムの役割を果たすと考える。 ・プログラムとしては行っていないが、面談や親子保育等を通して子どもの情報共有し、対応を一緒に考えたり提案するようにしている。 ・保護者を対象とした外部講師を招いての研修会を計画している。

	チェック項目	はい			課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
		はい	いいえ		
保護者への説明責任等	32 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	1		・契約時に行っている。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	14			・相談内容に応じ、栄養士、看護師等と連携して助言や提案を行っている。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	11	3		
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れが合った場合に迅速にかつ適切に対応しているか。	14			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14			
	38 個人情報の取り扱いに十分に注意しているか。	14			
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			・日々の連絡帳を通して、子どもが経験したこと、様子を丁寧にお伝えしている。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	9		・コロナで地域との交流、施設周知等の目的としての招待がかなり制約されていた。 5類に移行となり来年度以降徐々に緩和されていくと思っている。 ・地域の方々を招くことはスペースの問題もあり難しい場合もあるが、外部へのお出かけの際に地域の方とやりとりし、施設の特色や子どものことをご理解いただくことがある。行事などに地域の福祉事業所に協力して頂いている。

	チェック項目		はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策は保護者へ伝達し協力を得ている。しかし、緊急時などのマニュアル訓練の周知はしていない。 ・マニュアルは策定している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・センター全体で、火災、地震、津波発生等の訓練を行っている。振り返りであがった意見が訓練に反映されている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に必要事項を記載していただき、書類を提出していただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのお子さんは、約1年ごとにアレルギー検査を実施してもらい、給食提供、調理保育時などの対応を適切に行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・日々のヒヤリハットを全職員が記入し、毎月ヒヤリハット事例の情報共有を行うことで事故防止に努めている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年外部研修に数名職員が出席し、年1回以上の職場研修を実施し、虐待防止に努めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に当たる行為は行っていない。必要なケースが出てくれば、計画書記載、保護者説明などの必要事項はしっかりおさえて対応したい。